

第95回 守屋浩「僕は泣いちっちゃ」が大ヒットするまでの道のり

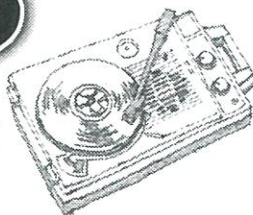
ザ・ピーナッツというグループ名の名付け親であり、日本テレビのプロデューサーだった井原高忠(『11PM』担当、『24時間テレビ』実現の功労者)は、慶大在学中の昭和26年頃、カントリー&ウエスタンのバンド、ワゴン・マスターズのリーダーとして活躍、同30年、ボーカルに高校中退の小坂一也を配し、和製ウエスタン第1号作品『ワゴン・マスタース(曲・服部レイモンド)』を大ヒットさせます。

ワゴン・マスタースはいくつかの曲折を経た後、昭和32年3月、もう一つ新たなバンド、スイング・ウエストが結成されます(GS全盛の昭和42年当時、湯原昌幸が在籍していたバンド、スウィング・ウエストのルーツです)。

グループ名には、ギタリスト兼リーダーだった堀威夫(後のホリプロ会長)のジャズとカントリーソングへの愛着が込められていました。他バンドとの違いを図るため、当時のC&Wバンドとしては珍しく、未經

名曲カルテ

昭和歌謡と いままで



堀井六郎
絵・松本浦



験者だったバンドボーイの田辺昭知(現・田辺エージェンシー社長)をドラマに起用します。

時代はロカビリーの胎動期で、翌33年2月、堀が音頭取りの一人となつて「第1回日劇ウエスタン・カーニバル」が開催、山下敬二郎、平尾昌章、ミッキー・カーチスのロカビリー三人男の登場もあって、十代女性を中心に爆発的なブームが巻き起こります。バンドとして評価の高かったスイング・ウエストでしたが、直前に人気リードボーカリストの清野太郎がスキーで骨折、熱狂の渦に入り損ねました。

半年後に開催された第3回カーニバルにおいて、堀は新たなリードボーカルとしてバンドボーイの守屋邦彦を抜擢、すでに出演者の中で話題になっていた水原弘と井上ひろしにあやかり「守屋浩」と改名、「三人ひろし」として売り出すことに腐心します。堀の興行師的な才覚がすでに発揮されていて、いわゆる相乗効果期待できることを「ロカビリー三人男」の人氣から学んだので

しょう。後の「ホリプロ三人娘」のことが連想されます。

守屋の人氣は日劇やロカビリーの枠を越え、歌謡界へと拡大、最大手のコロムビア・レコードから昭和34年7月、東宝映画『檻の中の野郎たち』の同名主題歌を発売し話題になります。「檻」とは鑑別所を意味し、映画は当時のロカビリアン大挙出演の青春群像劇で、守屋自身も主演級で出演したのですが、同曲が「練鑑ブルース」の焼き直しだったということで発売中止の憂き目にあいます。

苦渋をなめた守屋でしたが、堀の尽力もあり、日を経ずして、作曲家転向以来ヒットの機会をうかがっていた浜口庫之助の作品と出逢います。当時の人気歌手・青木光一も吹き込んだ曲でしたが、どうも似合わないという理由で守屋がカバー、同年9月にリリースされた曲が「僕は泣いちっちゃ」でした。

B面の『夜空の笛』(詞曲・浜口)とともに両面大ヒットとなり、守屋は一躍コロムビアを代表する若手歌手に躍り出ます。C&Wのロカビリー歌謡曲へと、二人三脚で渡り歩いた堀と守屋が演じた「人生塞翁が馬ストーリー」の最初のハイライトシーンでした。

ほりい・ろくろう 昭和27年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業後は25年にかけての出版社勤務を経て独立。現在は出版社経営の他、ライターとしても活躍。「私の『昭和大衆歌謡考』第4集『しあわせになるうね』(グスコウ出版)が好評発売中